

出会いは偶然でしたが、北海道の各地域で活動されている皆さんと交流を持つことができたことを嬉しく思っています。皆さんきさくな方ばかりで、突然の参加者を気軽に迎えてくださいました。長沼馬追と野幌で、北海道の夏の快適さを感じ、野菜と一緒に漬け込まれたラクヨウ(ハナイグチ)のマリネのおいしさに驚き、そして何よりキノコを観察したり調べたりすることを通じて、知らない土地でも多くの方と交流を持つことができるということを発見した、夏の北海道行でした。北海道キノコの会の皆様に心より御礼申し上げます。

観察されたキノコ（順不同）

アカヤマタケ属、イッポンシメジ属 3種、
ケショウシメジ、アカイボガサタケ、チャツムタケ、
シロタマゴテングタケ、キショウゲンジ、
アシベニイグチ、ヒダハタケ、タマゴタケ、ツエタケ、
ムツノウラベニガサ、レンガタケ、カヤタケ、
ハンノキイグチ、コガネヤマドリ、キチャホウライタケ、
ロウタケ、オニイグチ、アカモミタケ他



キノコ中毒の新聞記事

近田 隆

毎年の事ながら新聞やテレビなどにおいてもキノコ中毒の報告は少なくありません。そんな中の一例を御紹介します。

四街道で夫婦がキノコ中毒

【県衛生部に2日入った連絡によると、毒キノコ「ヒカゲシビレタケ」を食べた四街道の男性会社員(54)と妻(55)がめまいや舌のしびれなどを訴え、入院した。症状は軽いという。

鑑定をした県林業試験場によると、ヒカゲシビレタケは、カサの大きさが1~2センチで高さが約5セ

ンチ。日本全国の草地に自生し、ハタケシメジよりも少し小さいが形は似ている。毒性があり、幻覚症状などに教われ、死ぬ場合もあるという。】

毎日新聞 98年11月3日朝刊より

以上ですが、別の報道によりますと、この夫婦はヒカゲシビレタケをハタケシメジと誤食したそうですが、はたして間違えるものなのでしょうか？よしんば間違えたとしても、あの不味いヒカゲシビレタケを幻覚ができるほど食べられるんでしょうか？会員の御報告をお待ちしております。

お互い新聞やらには載らないようにしたいものですね。